

第 74 回公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会

第 46 回日本医療社会事業学会

岩手大会

開催要綱

大会概要

1. 名称

第74回公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会 岩手大会
第46回日本医療社会事業学会

2. 大会テーマ

ソーシャルワークとウェルビーイング「ほんとうのさいわい」をめぐる旅

3. 日程

2026年6月13日(土)～14日(日)

4. 参加人数

約900人(予定)

5. 大会長

小泉 進(盛岡赤十字病院 / 岩手県医療ソーシャルワーカー協会 会長)

6. 主催

公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会
岩手県医療ソーシャルワーカー協会

7. 会場

マリオス・盛岡市民文化ホール
〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通り2-9-1
TEL:019-621-5000

8. 大会事務局

公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会 組織運営部
〒162-0065 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷ヂングビル 2F
TEL:03-5366-1057 FAX:03-5366-1058 E-mail: jaswhc@d3.dion.ne.jp

9. 運営準備室

有限会社ヤマダプランニング
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡 1-5-5
TEL:019-635-6011 FAX:019-635-6033 E-mail: jaswhs2026-office@yamada-planning.co.jp

【プログラム】

6月13日(土)

基調講演

ウェルビーイングと私たち ～“よく在(あ)る”の再考～

座長：小 泉 進 (岩手県医療ソーシャルワーカー協会 会長)

講師：前野 マドカ (EVOL 株式会社 代表取締役 CEO、武蔵野大学ウェルビーイング学部 客員教授)

ウェルビーイングという言葉は、世界保健機関 (WHO) 憲章における健康の定義「病気でないとか、弱っていないということではなく、身体的・精神的・社会的に、すべてが満たされた状態」として知られ、近年、医療・福祉・教育・企業活動など、あらゆる領域で語られる概念となりました。

しかし、私たちは日々の実践のなかで問い続けています。「満たされている」とは、誰にとって、どのような状態なのか。それは支援の成果として“測る”ことができるものなのか。そして、制度や支援の枠組みを超えて、人はどのように“ほんとうのさいわい”に近づくことができるのか。

医療ソーシャルワーカーは、疾患や生活課題そのものだけでなく、その人の人生、価値観、関係性、そして“生き方”に寄り添う専門職です。私たちの実践は常に、クライアント一人ひとりのウェルビーイングを問いながら、同時に支援する私たち自身のウェルビーイングとも無縁ではありません。

本大会のテーマ「ソーシャルワークとウェルビーイング～『ほんとうのさいわい』をめぐる旅～」の出発点として、EVOL 株式会社代表取締役 CEO、武蔵野大学ウェルビーイング学部客員教授であり、幸福学研究の第一人者である前野マドカ氏をお迎えし、基調講演を行います。

前野氏は、幸福を「結果」や「状態」としてではなく、人と人とのつながり、意味のある行動、内側から湧き上がる動機といった“プロセス”として捉え、誰もが日常の中で育むことのできるものとして提示されてきました。

本講演では、ウェルビーイングとは何か、なぜ今それが必要なのか、そして私たちはそれをどのように捉え、実践につなげていけるのかについて、多くの示唆と問いを投げかけていただきます。

大会の最初に、この「旅」の地図を手にすること。

それは、二日間の学びをより深く、より自分自身の実践に引き寄せるための、確かな羅針盤となるはずです。

特別講演

異彩を、放て。

座長：佐々木 章 (岩手県医療ソーシャルワーカー協会 副会長)

講師：松田 文登 (株式会社ヘラルボニー 代表取締役/Co-CEO)

これまでの日本社会を支えてきた「普遍的、効率的、画一的」という価値観は、時代の変遷とともに大きな曲がり角にきており転換点を迎えています。その旧来の価値観と「超少子高齢化社会」、「ゼロ成長社会」の間の歪みに私たち自身が悩み、翻弄されているかもしれません。この社会状況の中で、社会的に安定しつつ自分らしい人生を歩み続けるにはどのようにしたら良いでしょうか？

一方、大会のメインテーマであるウェルビーイングとは「心身だけではなく社会的にも満たされた状態」のことを指しています。これは主観的な満足感が含まれており、一人ひとり実感が異なるため十人十色の形があると言われています。本大会では岩手を軸に福祉領域の拡張、「障がい」に対する社会イメージの変容や「福祉」を起点とした新たな文化の創造を目指している株式会社ヘラルボニーの松田氏よりご講演を賜り、我々医療ソーシャルワーカーが支援の対象としている傷病・障がいを有する方々のウェルビーイングの形を考えるとともに、私たち自身の価値観の変容や新しい文化の創造の機会にしたいと考えております。

講演

No Surrender—決して屈しないソーシャルワーカーになる！

座長：青木 慎也（岩手医科大学附属病院）

講師：川村 隆彦（エスティーム教育研究所）

ソーシャルワークのグローバル定義によると、ソーシャルワークは、「社会変革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと解放を促進する、実践に基づいた専門職であり学問である」とされています。生活課題に取り組みウェルビーイングを高めるよう、人々やさまざまな構造に働きかけることがソーシャルワーカーの役割のひとつとしてあげられます。

我々医療ソーシャルワーカーはクライアントの伴走者として、悩みに寄り添い、時に共に立ち止まりながら歩む立場ではありますが、その支援の過程でソーシャルワーカー自身が、パワーレスに陥る場面も少なくはない状況です。

ソーシャルワーカー自身のウェルビーイングの向上が、クライアントへの支援において重要な点であることから、支援における課題や困難に対して、前向きに取り組む視点を養い、ソーシャルワーカー自身の自己効力感を育むことを目的とし学びを深めていきたいと考えております。

このような趣旨を受け、エスティーム教育研究所、川村隆彦氏が、次のテーマで講演をいたします。

No Surrender—決して屈しないソーシャルワーカーになる！

不安定な社会情勢のなか、現実と向き合うソーシャルワーカーを思い浮かべたとき、ブルース・スプリングステインの「No Surrender」を思い出す。

Like soldiers in the winter's night with a vow to defend No retreat no surrender

—冬の夜の兵士たちのように守り抜くと誓った。撤退も降伏もしないのだ！—

困難な状況にある君の心に光をあてると、これまでの格闘の物語が息を吹き返し、ずっと確信してきた「ソーシャルワークの価値」が輝きを取り戻す。

その小さな輝きをクライアントや仲間へ手渡すなら、それは「ほんとうのさいわい」への旅を灯す松明になる。君の「格闘の物語」から生まれた「ソーシャルワークの価値」は輝きを放つ。そして君は、冬の夜の兵士たちのように、人々を守り抜く、決して屈しないソーシャルワーカーになる！

エスティーム教育研究所代表 川村隆彦

講演

これからのがん・循環器病対策とソーシャルワーカーに期待される役割

講師：鶴田 真也（厚生労働省 健康・生活衛生局 がん・疾病対策課長）

本講演では、我が国のがんおよび循環器病対策の動向について話しをする。疾病により生じる患者・家族の生活課題への対応、地域の関係機関との連携など、医療ソーシャルワーカーがどのように専門性を発揮し、役割を果たすべきか、今後の実践の方向性について考える機会としていただきたい。

シンポジウム

災害支援とソーシャルワーク

コーディネーター：伊藤 隆博（神戸学院大学総合リハビリテーション学部）

シンポジスト：小泉 進（岩手県医療ソーシャルワーカー協会）

林 真紀（やわたメディカルセンター）

福井 康江（日本医療ソーシャルワーカー協会）

災害支援は表層的な支援だけではなく、地域性、社会背景も鑑みた重層的かつ長期的な支援が求められています。災害時におけるソーシャルワーカーの重要性、これから取り組んでいくべき課題について東日本大震災、能登半島地震等の経験を踏まえながら今後の展望を考える機会にしたいと思います。

アルコール体質判定体験ブース

「あなたは飲める体質？飲めない体質？それとも？」

大分大会、三重大会で大好評だった「アルコール体質判定」を、岩手大会でも開催します。「私はお酒に弱いんです」「お酒を飲んでも全然顔色が変わらない」など、お酒に対しての体質ってありますよね。実際に自分自身がどういう体質なのか、客観的に知ってみませんか？

「体験ブース」に来てもらえれば、お酒が「ぜんぜん飲めない族」「ホントは飲めない族」「飲み過ぎ注意の危ない族」のどれかが、わずか20分でわかります。そしてなぜそうなのかがわかる、説明書付きです（無料）。体質判定した後、依存症を身近な問題として経験することを通し、依存症支援の重要性を共有しましょう。

なお体質判定には、NPO法人ASKによる「ASKアルコール体質判定セットかんたんジェルパッチ」を用います。

シンポジウム

アルコール依存症のリカバリーのごと、聞いてみっが。

座長：平井 美奈子（愛媛大学医学部附属病院）

講師：稗田 里香（東京通信大学）

シンポジスト：近藤 昭恵（岩手医科大学附属病院）

白沢 正義（岩手県断酒連合会みちのく断酒会）

高橋 美恵子（岩手県断酒連合会みちのく断酒会）

「サケハ ボンノウノタグヒ サレド カゼトヒカリノホウエツハ タバシキヨヒナリ」

（手帳「雨ニモマケズ」時期の覚書類より）

宮沢賢治の作品には、酒が登場します。冷害や干ばつによる農民の苦しきのはけ口が、密造酒など安い酒に向かい、かさむ酒代と貧困にあえぐ悪循環の状況に対する憂いを、作品の中に残しています。酒は人間の弱さや逃避を象徴するものと訴える賢治さんの思想的背景があったと、研究者らによって解釈されています。

実は、信じ難いかもしれませんが、賢治さんの憂いや訴えは、現代のアルコール依存症の発症要因やリカバリーの考え方におおいに重なるものがあるのです。

そこで、

「んでばまらず、現場のmsw、リカバリーを体験したひと、家族のひとから、アルコール依存症のリカバリーのごと、聞いてみっが」。

【プログラム】

6月14日（日）

シンポジウム

1部「身寄りがなくても安心して暮らせる社会を目指すには」

座 長：対馬 清美（愛知医科大学病院）

シンポジスト：沢村 香苗（株式会社 日本総合研究所 創発戦略センター）

宮崎 玲香（岩手県医療ソーシャルワーカー協会 つなぐプロジェクト）

吉江 暢洋（川上・吉江法律事務所）

菊池 涼子（恩賜財団済生会 北上済生会病院）

大地 裕介（社会福祉法人豊田市社会福祉協議会くらし応援課、豊田市成年後見支援センター）

医療機関において、いわゆる「身寄りがいない方」へ関わるケースは近年増加傾向にあります。現場では身元保証に関する事柄だけでなくシャドーワークとされる細かなタスクも発生し、その都度悩みながら対応している状況があると推察されます。岩手県医療ソーシャルワーカー協会では「身元保証問題プロジェクト（通称：つなぐプロジェクト）」を令和5年度に立ち上げ、アンケート調査や関連団体との意見交換会、研修会への講師参加派遣などを行い、地域との課題共有とネットワーキングに取り組んでおります。本企画では、これまでの活動報告に加え、全国各地の皆様取り組みを伺いながら、「身寄りがなくても安心して暮らせる社会を目指すには」をテーマとして、登壇者の発表を通じて「あるべき姿」「現状」「課題」を共有し、今後の「展望」について参加者の皆様と共に考え、「持続可能（サステイナブル）な社会」に向けて一歩を踏み出すきっかけとなる機会としたいと考えております。

シンポジウム

2部 単身世帯社会に向けて医療機関が備えること

～「身寄りのない患者を取り巻く社会的課題についての研究」をもとに考える～

座 長：交渉中

報告者：林 祐介（日本福祉大学）

シンポジスト：増田 由美（磐田市立総合病院）・・・地域と連携しての取り組み

佐野 晴美（JCHO 横浜中央病院）・・・県協会としての取り組み

他1名 交渉中

身元保証人問題チームは一身元保証会社の倒産が消費者問題として取り上げられたことを契機に2017年に発足し、増加の一途を辿る単身世帯者の医療保障を視野に活動を継続してまいりました。この間国は「身寄りなし問題」に対して新事業の立ち上げを決めましたが、医療機関内の問題は具体的な解決策はまだ見えていません。そこで今回のシンポジウムでは医療機関にとってどのように備えることが医療機関にとっても患者にとってもよい方法なのかを考えたいと思います。

講演

こころと私と共に生きる～病院から地域へ～

座長：山館 幸雄（盛岡医療福祉スポーツ専門学校）

講師：小瀬古 伸幸（トキノ株式会社 訪問看護ステーションみのり）

こころの病気（精神疾患）は、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病と同様に地域医療の基本方針となる医療計画に盛り込むべき5大疾病の一つとされています。

わが国の地域精神保健医療福祉については、平成16年9月に策定された「精神保健医療福祉の改革ビジョン」において「入院医療中心から地域生活中心」という理念を明確にし、様々な施策を行ってきました。「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進・支援事業」が立ちあげられ、地域共生社会の実現に向けて精神障害の有無や程度にかかわらず誰もが自分らしく過ごすことができるようなシステムの構築に向けた取り組みが始まりました。また、令和4年の精神保健福祉法の改正において、都道府県及び市町村が実施する精神保健に関する相談支援の対象に「精神保健に関する課題を抱える者」が追加されました。

国としてのシステム構築が謳われる中で、病院から地域へ生活の場が変わっていく当事者のことを、我々支援者はどれだけ理解しようとし、耳を傾けることができているでしょうか。

精神科医療に約20年携わり、現在は精神科に特化した訪問看護ステーションの統括所長として活躍されている小瀬古伸幸氏よりご講演を賜り、支援者である「私たち」と当事者の「彼ら」という枠組みではなく、地域で共に生きる私たちとして求められるものとは何なのか、地域生活を送る方のウェルビーイングを理解し分かち合う機会にしたいと考えております。

講演

仏教から学ぶ現代の生き方、ウェルダイイング

座長：熊原 直子（岩手県立久慈病院）

講師：南洞 法玲（世界遺産 天台宗別格本山 毛越寺）

岩手県平泉には浄土思想に影響を受けて造られた寺院・庭園の一群があり、それらは2011年に世界遺産（文化遺産）リストに登録されました。そして、1124年(天治元年)に藤原清衡公によって建立された中尊寺金色堂は、2024年に900年の節目の年を迎えています。

本大会では「ウェルビーイング」をメインテーマに、クライアントそして我々ソーシャルワーカー自身のこれまでの在り方、これからの在り方を考える講演を企画しました。そのベクトルは、「生きる」という方向性への問いで「未来志向」でしたが、一方で、「死」は誰の元にも平等に訪れます。医療ソーシャルワーカーは、死にゆく人の側にどのように寄り添えるのか？ウェルビーイングと表裏一体の「ウェルダイイング」とは何か？世界遺産「平泉」文化を交えて、皆さんと「よく生き、よく死ぬ」ことを共に考える機会にしたいと思っております。

シンポジウム

在宅医療に必要な連携を担う拠点の現在地

座長：田上 幸輔（北海道在宅医療推進支援センター）

シンポジスト：調整中

在宅医療に必要な拠点が本来担うべき「中立的かつ継続的な役割」の再定義を目指し、「連携拠点という“箱”に中身はあるのか？」「在宅医療の“地域格差”を是正する拠点機能とは？」「行政主導と現場実践の乖離をどう埋めるか？」等の内容をディスカッションしていきたい。

シンポジウム

豊かなキャリアデザインを目指して

座長：堀越 由紀子（星槎大学）

司会：名田部 明子（野村病院）

シンポジスト：志賀 功平（社会医療法人河北医療財団河北総合病院）

郡 章 人（地方独立行政法人徳島県鳴門病院）

上田 大介（公益財団法人いわてリハビリテーションセンター）

早坂 由美子（北里大学病院）

医療ソーシャルワーカーのキャリアは経験年数の積み重ねだけではなく、自らの価値観や専門性をどのように位置づけ、デザインしていくかが問われている。

認定医療ソーシャルワーカー等の認定取得は、統合的な実践能力等を備えた専門職としてのひとつの到達点と言えるが、偶発的に出会う成長への機会に向き合う過程は、個々のキャリアにどのような「豊かさ」をもたらすだろうか。

当シンポジウムでは、認定取得を目指す者、認定取得者、ソーシャルワーク部署管理者、当協会それぞれの立場からの報告を通し、専門職として成長し続けるためのキャリア形成のあり方を検討したい。

ワークショップ

会長会企画 ソーシャルワーカーに花束を…！

座長：坂詰 明広（全国医療ソーシャルワーカー協会会長会代表）

講師：村田 藍子（NTT株式会社 社会情報研究所 Well-being 研究プロジェクト）

本大会の軸となる「ほんとうのさいわい」をめぐる旅の終着点。

医療ソーシャルワーカーは、人の生き方や価値観の多様さに向き合い、支援者としてだけでなく、ひとりの人として揺れ動きながら、日々多くの出会いを重ねています。その中で支援者自身のウェルビーイングを振り返り、仲間と確かめ合う時間は決して多くありません。本企画では、そうした日々の実践に光を当て、「自分にとって」「相手にとって」「社会にとって」のウェルビーイングとは何かを、対話を通して探究することを目的とします。

ウェルビーイングとは、単に「精神的・肉体的・社会的に良好な状態」といった“条件の揃った姿”では語りきれません。人それぞれに背景があり、健康状態、障がい、孤独や不安、葛藤や希望など、異なる「よく生きるあり方」があります。むしろウェルビーイングの本質は、一瞬だけの快い状態ではなく、過去のつまずきや試行錯誤を含んだ“時間の広がり”の中で育まれるものだと言えるのではないのでしょうか。さらにそれは、自分だけで完結するものではなく、関わる人や地域、社会、そして自然環境など「関係性の広がり」の中で形づくられていくものと考えます。

今回のワークショップでは、参加者が自身の実践や価値観を言葉にし、「自分にとってのウェルビーイング」だけでなく「相手や社会とともに形づくるウェルビーイング」を語り合う機会にしたいと考えております。印象に残る支援の場面や、仲間に贈りたい“花束（＝ことば・感謝・気づき）”を交換することで、互いの大切にしているものの輪郭をあぶり出し、明日からの実践へとつながる新たな視点を育むことを目指します。

“ソーシャルワーカーに花束を”というテーマには、一人ひとりの実践や想いが色とりどりの花のように存在し、その多様なあり方が寄り添い混ざり合うことで、医療ソーシャルワークの世界が豊かさを増していくという願いを込めています。

本ワークショップが、参加者が自身の歩みを肯定し、仲間の存在を感じ合い、ウェルビーイングを「目指すもの」ではなく「今ここから共につくっていくあり方」として実感する時間になることを期待しております。

オンデマンド配信

シンポジウム 患者の権利法をつくる会企画

座 長：今尾 顕太郎（別府大学）
講 師：小林 洋二（弁護士／九州合同法律事務所）
シンポジスト：松井 亜由美（のぞみハートクリニック）
鈴木 孝宗（原宿リハビリテーション病院）
菊池 裕子（公立岩瀬病院）

患者の権利法をつくる会チームでは、患者の権利を医療基本法の策定に反映させることで、医療ソーシャルワーカーの業務がより理念と専門性に則ったものとなること、そして、クライアントのウェルビーイングを守ることを目指して活動を継続しています。今回の企画は、医療基本法が制定されることで、MSW の実践がどのように支えられ患者の最善の利益につながるのか、また制度としてどこまで実現可能なのかについて議論を深めます。医療基本法を「難解なもの」として終わらせるのではなく、現場を支える羅針盤として位置づけることを目指します。

オンデマンド配信

シンポジウム ハンセン回復者支援の「今」を改めて考える

座 長：交渉中
シンポジスト：内藤 政義 弁護士
あおばの会（当事者）
ハート相談センター相談員 交渉中

全国のハンセン療養所の入所者数が減少し、地域で暮らす回復者の方々も再入所を考える方がいらっしゃいます。しかし、地域で、できれば生まれ故郷で暮らしたいという方もおられます。改めてソーシャルワーカーがその方々にできることを考えてみたいと思います。

オンデマンド配信

救急認定ソーシャルワーカーのつどい

『災害医療における ESW に求められる役割と支援』

座 長：谷 峰 穂（小豆島中央病院 救急認定ソーシャルワーカー）
■講演 「災害医療における DMAT 活動と ESW への期待」
登壇者：若井 聡智（国立健康危機管理研究機構 危機管理・事務局 厚生労働省 DMAT 事務局 次長）
実践報告：中野 めぐみ（国立健康危機管理研究機構 厚生労働省 DMAT 事務局）
■救急認定ソーシャルワーカー認定機構からのご案内
救急認定ソーシャルワーカーの認定者の現状と申請手続きについて
報告者：福森 優司（大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター ESW）

災害時におけるソーシャルワーカーには患者の生活・社会的背景を迅速に把握し、行政機関、福祉避難所、NPO、ボランティア等の支援機関と連携し生活基盤の再構築につなげることや支援機関をサポートする役割が求められる。さらに、混乱期における意思決定支援や心理的支援を担い、DMAT の一員として医療を社会につなぐ調整役を果たすことが期待される。本セッションでは、救急認定ソーシャルワーカー（ESW）の特性や強みである臨機応変さや迅速な対応力を災害医療現場でどのように活かすことができるのかを検討する機会としたい。また、救急認定ソーシャルワーカー認定機構から申請手続き・研修実施等について報告を行う。

<第46回日本医療社会事業学会> 口頭発表・質疑応答

<公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会第16回社員総会>

<全国会長会> 会場実施+Zoom ミーティング

プログラムは2026年1月19日現在のものです。
事情により変更する場合がありますのでご了承ください。
詳細については順次、大会ホームページにてお知らせいたします。

<https://jaswhs2026.umin.jp>

参加登録のご案内

大会事務局からの委託により、株式会社 JTB 盛岡支店が大会に参加される皆様の受付を担当させていただくことになりました。皆様方のお越しを心よりお待ちしております。

●開催形態のご案内

本全国大会及び学会は対面形式による現地開催とすることとなりました。当日のライブ配信はございません。ここ数年、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、オンラインと現地参加のハイブリッドという新しい試みで開催してまいりましたが、参加や交流の在り方の可能性を広げると同時に、ディスカッションや交流の難しさなど、新たな課題も見えてまいりました。開催形態につきましては、皆様から多数のご意見をいただき慎重に検討を重ねてまいりましたが、本全国大会及び学会につきましては、現地参加のみで開催する運びとなりました。1人でも多くの皆様に現地へ足を運んでいただき、企画や会場の雰囲気、熱量等も肌で感じていただき、多くの医療ソーシャルワーカーの仲間との議論や交流を愉しんでいただければと思っております。（大会事務局）

【全国大会】

- ・当日のライブ配信はありません。
 - ・一部の企画は、後日、オンデマンド配信を行いません。
 - ・一部オンデマンド配信のみのプログラムがございます。
- 6月13日（土）12:00～7月31日（金）23:59 配信予定。

【学会（分科会）】

- ・ライブ配信及び大会終了後のオンデマンド配信はなく、質疑応答も現地参加のみとなります。

●参加登録・支払期間

【早期参加登録】

2026年2月2日（月）正午～4月24日（金）23:59 まで

【通常参加登録】

2026年5月9日（土）～6月14日（日）正午まで

<https://jaswhs2026.umin.jp>

参加登録のお申し込みは、上記の大会ホームページで承ります。

【支払期間】

クレジットカード決済期間：2026年2月2日（月）～6月14日（日）正午

銀行振込期間：2026年2月2日（月）～5月29日（金）

- ・早期参加登録期間内にご入金が確認できない場合、通常参加登録期間の参加費に引き上げとなります。
- ・大会当日は、参加費の現金支払いには対応いたしません。

●参加費について

(全て税込)

会員種別	早期参加登録（早割）(2/2-4/24)	通常参加登録期間（割引なし）(5/9-6/14)
	決済方法に期限あり*3	
	参加費 現地参加	参加費 現地参加
会員*1	10,000 円	14,000 円
非会員	15,000 円	16,000 円
学生*2	3,000 円	3,000 円

*1：会員は、日本医療ソーシャルワーカー協会、都道府県医療ソーシャルワーカー協会（都道府県医療社会事業協会）、日本社会福祉士会・日本精神保健福祉士協会・日本ソーシャルワーカー協会の会員となります。入会申請中の方で各参加登録期間までに承認が間に合わない場合は非会員のカテゴリ対象となります。

*2：学生は、大会会期中に、以下のいずれかに該当している者とします。

ア：大学・専門学校・短期大学における社会福祉士・精神保健福祉士養成課程に在籍中の者

イ：社会福祉専攻の大学院に在籍中の者

ただし、大会にて発表・登壇予定の者は、大会抄録集掲載の所属に従って申し込むこと。

※参加登録時に、学生証の画像のアップロードが必要です。

*3：銀行振込をご希望の方は、5月29日（金）17:00 までに入金確認ができるようにお振込みください。5月29日（金）17:00 以降は、クレジットカード決済のみのお取り扱いとなります。ご注意ください。

●事前申し込みが必要なプログラムの参加について

一部のプログラムは、準備の都合上事前申し込みが必要です。大会参加登録と一緒に参加登録フォームよりお申し込みください。参加費：無料

【事前申し込みが必要なプログラム】

ワークショップ 会長会企画 ソーシャルワーカーに花束を…!

日時：2026年6月14日（日）11:15~12:45（予定）

定員：60名

●交流会

第1日目6月13日（土）19:00 より、交流会を実施する予定です。大会参加登録と一緒に参加登録フォームよりお申し込みください。

日 時：2026年6月13日（土）19:00~20:30（18:45~ウェルカムドリンク）

開催方法：現地開催

参加費：8,000円（税込）

会 場：ホテルメトロポリタン盛岡（盛岡駅北口1分）

●申し込みの流れ

【参加登録申請】

大会ホームページから、はじめに「メールアドレス登録」を行ってください。

メールアドレス登録後に、システムより自動返信メールが送信されます。

届いたメール内に記載の URL より所定の登録事項を入力し、参加費をお支払いください。

※注意事項※

- ・1メールアドレスに対して、1回までの登録となります。同じメールアドレスでの複数登録は出来ません。
- ・ご不明な点がございましたら、参加登録デスクまでご連絡ください。

【参加費のお支払い】

各項目登録完了後、参加費のお支払いページに遷移しますので支払い手続きをお願いいたします。

支払方法は、クレジットカード決済、銀行振込のいずれかになります。銀行振込につきましては振込期限を設けておりますので下記をご確認ください。

■クレジットカード決済の場合

- ・VISA、Mastercard、AMEX、JCB、Diners Club、Discover をご利用いただけます。
- ・参加登録後、カード決済画面が表示されますのでそこから支払手続きを進めてください。

■銀行振込の場合

- ・2026年5月29日（金）17:00 までに入金確認ができるようにお振込みください。
- ・以降の振込みは受け付けておりませんので、クレジットカード決済をご利用ください。
- ・お振込時に、自動返信メールに記載されているログイン ID と氏名（カタカナ）を入力してください。
- ・複数名分を一緒に振込される場合は、下記の参加登録デスクまで事前にご連絡をお願いします。
- ・銀行振込の送金手数料は参加される方のご負担となります。ご了承ください。
- ・入金確認にはお時間を要する場合がございますので予めご了承ください。

【参加登録完了】

お支払い手続き完了後に登録されたメールアドレスに自動返信メールが送付されます。

本メールをもって参加登録完了となります。24時間経ってもメールが届かない場合は、参加登録デスクまでお問い合わせください。

【マイページへアクセス可能】

参加登録完了後、マイページへアクセス可能となります。アクセス方法は、参加登録完了時の自動返信メールに ID と PASS を記載しておりますので、メールの内容をご確認ください。

【参加証・参加証明書・領収書について】

参加証・参加証明書・領収書は郵送いたしません。6月1日（月）10:00～マイページよりダウンロードが可能となりますのでそちらをご利用ください。会場受付で参加証の半券を回収いたしますので、各自印刷した参加証を必ず当日会場へお持ちください。会場受付での密を避けるため、ご協力お願いいたします。なお、参加証明書・領収書の発行は2026年7月31日（金）までとなります。以降は発行できなくなりますのでご注意ください。

●抄録集の発送について

■早期参加登録期間（早割）（2/2～4/24）にご登録いただいた方

※銀行振込の方は、4月16日（木）までに登録、入金を完了してください。

- ・抄録集は5月下旬頃発送いたします。また、抄録のPDFデータが整い次第、メールで閲覧方法をご案内いたします。

■通常参加登録期間（割引なし）（5/9～6/14）にご登録いただいた方

- ・5月29日（金）17時までにお申し込み・ご入金を確認できた方には、6月8日頃に抄録集を発送いたします。また、抄録のPDFデータが整い次第、メールで閲覧方法をご案内いたします。
- ・5月29日（金）17時以降に、お申し込み・ご入金された方は、抄録はPDFで閲覧できるようにメールで閲覧方法をご案内いたしますが、抄録集は現地でお渡しいたします。

●変更・キャンセルについて

【変更について】

マイページ内の「登録情報の変更」ページよりご自身で登録情報の変更が可能です。

ただし、早期参加登録で、5月下旬に抄録集の発送をご希望の方は、5月18日（月）までに変更を完了してください。

通常参加登録で、6月8日頃の抄録集発送をご希望の方は、5月29日（金）までに変更を完了してください。

【キャンセルについて】

入金後のキャンセルは、4月24日（金）17時までにご連絡をお願いいたします。ご入金額から1,000円の事務手数料を引いた額を返金いたします。

4月24日（金）17時以降のキャンセルはご返金出来かねます。予めご了承ください。

また、虚偽の申請あるいは学会開催中に迷惑行為などが発覚した場合は、参加権利が取り消され、一切返金できませんのでご了承ください。

●お申し込み・お問い合わせ先

第74回公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会
参加登録デスク

株式会社 JTB 盛岡支店

「第74回公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会/第46回日本医療社会事業学会」係

〒020-0024 岩手県盛岡市菜園 1-12-18 盛岡菜園センタービル4階

TEL：019-651-7474 E-mail：morioka_mice@jtb.com（担当：太田）

〔営業時間〕平日 9:30～17:30（土・日・祝祭日は休業）

総合旅行業務取扱管理者： 八幡 譲

※総合旅行業務取扱管理者とは、お客様の旅行を取り扱う営業所での取引に関する責任者です。

この旅行契約に関し、担当者からの説明にご不明な点があれば、ご遠慮なく上記の旅行業務取扱管理者にお尋ねください。